

編集後記

- ここに『西南学院史紀要』第2号をお届けいたします。何とか発行予定の学院創立91周年記念日に間に合うことができました。
- 昨年5月、大学博物館（ドージャー記念館）が開館いたしました。この博物館内には、学院創立者C. K. ドージャーのメモリアルホールがあり、西南学院の建学の精神、即ち、その教育・研究の立ちどころとしているキリスト教の歴史と文化を概観することのできる資料が展示されています。今号は、この大学博物館を特集として取り上げています。
- 大学博物館の意義と概要については、高倉洋彰館長と米倉立子学芸員にそれぞれ執筆をお願いしました。それとともに、博物館の「ミッションステートメント」の作成等、今後の博物館の運営にとって貴重な提言が含まれている、九州国立博物館の瑩信祐爾氏による博物館開館記念講演も採録させていただきました。座談会は大学博物館管理運営委員及び協議会委員の諸氏に参加していただき、博物館の展望と課題について貴重なご意見と夢を語っていただきました。ご協力頂いた皆様に感謝申し上げます。建学の精神のシンボルとしてのドージャー記念館の今後の役割に大いに期待したいと思います。
- 創刊号では、他校の百年史編纂研究ということで、『関西学院百年史』を取り上げました。本号では、同じ福岡市にある福岡女学院の百年史を取り上げ、その編纂委員長として活躍された皆川範義氏に、福岡女学院百年史編纂の経緯を記して頂きました。唐突かつ急なこちらの願いを快く引き受けてくださり有り難く思います。歴史の一部としての恥部も明らかにすべきとのご教示は、西南学院史編纂にあっても銘記すべきことと思います。
- 学院史における人物評伝ということで、岩田扇氏に、西南学院第3代院長G. W. ボールデンの御殿場での活躍について執筆をお願いしました。西南を離れてから帰米までの期間、御殿場で七面鳥の飼育やハム・ソーセージの製法等の指導で地域にとけ込もうとしていたボールデン元院長についての興味深いエピソードの紹介をいただき感謝申し上げます。
- 最近よく他校の大学史および学院史紀要等が届くようになりました。最近の大学史あるいは学院史研究は一つの学問分野を形成しつつあると言っても過言ではありません。古賀敦子氏の全国大学史資料協議会及び研究会参加報告は、そのことを再確認させてくれます。
- 創刊号では編集が「西南学院史編纂諮問委員会」でしたが、今号から「西南学院史編纂準備委員会」の編集となりました。学院常任理事会の承認のもと、いよいよ学院百年史編纂に向けて準備委員会が動き出すことになりました。準備委員会の構成は諮問委員会と変わりませんが、塩野和夫委員長が病のため倒れられましたので、急遽、小林が委員長の任を担うこととなりました。幸い塩野委員は授業を行えるまでに回復されました。引き続き御加禱をお願いいたします。
- 本紀要が西南学院史の調査・研究の成果を公表する場、あるいは学院内外の百年史編纂に対する協力と理解を得る媒体として力を発揮するよう委員一同編集に努めて参ります。ご支援、ご協力、よろしく願いいたします。（小林洋一）